

ノロウイルス検査

ノロウイルスは、ウイルス性食中毒の主要な原因ウイルスで、秋から冬にかけて集団食中毒を引き起こします。また、このウイルスは1年を通じて、集団生活を行う施設などでの集団感染を引き起こし、患者数は毎年1万人以上にのぼります。

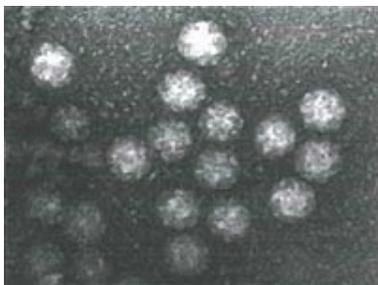
特徴的な「下痢、おう吐」などの症状が治まった人、感染しても全く症状が無のまま感染に気づかずにいる人も、一定期間（約2～4週間）ウイルスが腸内にとどまり、排泄され続けています。症状が無く、自覚のないまま「感染源」になってしまわないようにするためには定期的な検査が必要です。

ノロウイルスは、感染力が強く感染経路も多様（下表）で、10～100個のウイルスがあれば感染します。

- ・ 集団検査の場合、イムノクロマト法、EIA法が便利です。（結果が早いのはイムノクロマト法です）
- ・ 感染後のウイルス保有の有無を確認する場合は、感度の高いPCR法をお勧めします。

特徴

潜伏期間	数時間～数日（平均1～2日）
症状持続期間	数時間～数日（平均1～2日）
おもな症状	吐き気、おう吐、下痢・・・発熱の頻度は高くない おう吐・下痢は1日数回から、多いときには10回以上のこともある 他の病気がある等の要因がない限り、重症化、入院は少ない 高齢者での注意：合併症、体力の低下などで症状が長引くことがある
治療	特効薬はなく、対症療法・・・最も重要なのは水分補給で脱水を防ぐこと
感染経路	ヒトから排出されたウイルスによって感染する （ノロウイルスはヒトの腸内でのみ増殖する）
食中毒 （飲食物と共に口から 入った場合）	①二枚貝を“なま”又は“加熱不足”で食べた場合 ②二枚貝などの調理中に、他の食品に二次汚染した場合 ③感染している調理従事者の手指から、食品が汚染された場合 ④ウイルスに汚染された水、氷を飲用した場合
感染症 （飲食物以外の方法で 口から入った場合）	①感染者の嘔吐物や糞便処理時にウイルスを吸い込んだ場合（飛沫、乾燥して 空気中に漂ったホコリと一緒にウイルスを吸い込む） ②手洗いが不十分で、ウイルスに汚染された箇所を介して手指にウイルスが付着、口に入ってしまう場合（症状が治まっても注意が必要）



ノロウイルスの直径は約30nmの非常に小さなウイルスで、電子顕微鏡でないと見る事が出来ません。

関係法令

ノロウイルス検査—大量調理施設衛生管理マニュアル [<http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/01.html>]

平成9年3月24日衛食第85号別添（厚生労働省）

学校給食衛生管理基準 [http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1283821.htm]

平成9年4月1日制定（文部科学省）